

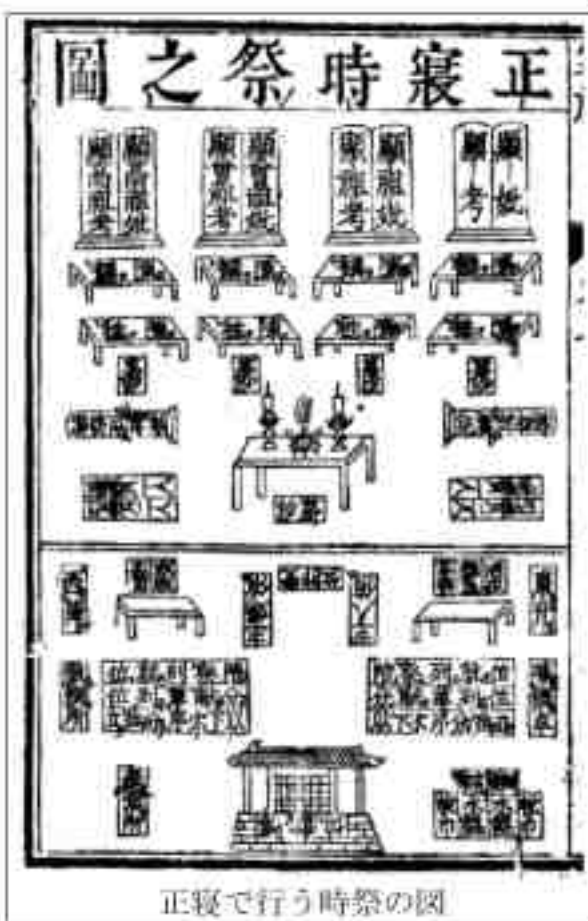
家礼その5～祭礼

第1章 四時祭

時祭には仲月（2月、5月、8月、11月）を使用し、前旬（前の月の下旬）に日を占います。〔孟月（1月、4月、7月、10月）の下旬の最初に、仲月の

三旬（上旬、中旬、下旬）からそれぞれ1日、丁の日か亥の日を選びます。主人は、きれいに着飾り、祠堂の中門の外に立ち、西に向きます。兄弟は、主人の南に立ち、少し退きます。北が上となります。子孫は、主人の後に立ち、二列にならび、西に向きます。北が上となります。主人の前に卓子（テーブル）を置き、香炉、香合（お香の容器）、杯玦（占いの道具）と盤（ボード）をその上に置きます。主人は、笏を掲げ、お香を焚き、杯玦（占いの道具）をいぶし、かくして上旬の日を指定して「某符以来月某日謹此歳事、適其祖考、尚饗」と言います。そこで盤（ボード）上に杯玦（吉凶を占う道具）を放り投げます。1つが表、1つが裏なら、吉です。吉でないなら、さらに中旬の日を指定して占い、さらに吉でないときには、再び占わないで、

そのまま下旬の日を使用します。日が決まったら、祝（祝詞をあげる人）は、中門を開きます。主人以下は、北に向いて立ちます。それは朔望の祭祀の位置のようにします。全員が二度おじぎします。主人は、登り、お香を焚き、二度おじぎします。祝（祝詞をあげる人）は、文章を手に持ち、主人の左にひざまずき、読んで「孝孫某符以来月某日、祇薦歳事於祖考、卜既得吉、敢告」と言います。下旬の日を使用するときには、「卜既得吉」と言いません。主人は、二度おじぎし、降り、もとの位置に戻り、位置にいる人たちと一緒に二度おじぎします。祝（祝詞をあげる人）は、門を閉じます。主人以下は、再び西に向いて位置につきます。執事は、門の西に立ち、全員が東に面します。北が上となります。祝（祝詞をあげる人）は、主人の右に立ち、執事に命じて「孝孫某符以来月某日、祇薦歳事於祖考、有司具饗」と言います。執事は、答えて「諾」



正寝で行う時祭の図

と言ひ、そこで退きます]。

期日の三日前に斎戒（ものいみをして心身を清めること）をします。[期日の三日前、主人は、丈夫（成人した男子）たちをひきつれ、外においてものいみをします。主婦は、婦女たちをひきつれ、内においてものいみをします。沐浴し、更衣します。酒を飲んでも、酔っ払ってははいけません。肉を食べても、においに強い野菜（ニラやニンニクなど）を食べてはいけません。葬式に弔間に行きません。音楽を聞きません。およそ不吉なことには、まったく関わってはいけません]。

祭祀の前日、位置を用意し、道具をならべます。[主人は、丈夫（成人した男子）たちをひきつれ、礼服を身に付け、執事と一緒に正寝（表座敷）を掃除し、倚卓（イスとテーブル）を洗ってふき、がんばってサッパリときれいにします。高祖考妣（高祖父と高祖母）の位牌を堂の西、北壁の下に用意し、南に向けます。考（男系）は西で、妣（女系）は東で、それぞれ1つの倚（イス）と1つの卓（テーブル）を使用して、これを合わせます。曾祖考妣（曾祖父と曾祖母）、祖考妣（祖父と祖母）、考妣（父と母）という順番で東に向かって並べていきます。すべて高祖の位牌のようにします。世代ごとに位置をつくり、各世代の位置をつなげないようにします。兩位（一緒にまつている位牌）は、すべて東序に置き、西に向けます。北が上となります。場合によっては、西序も使って互いに向かい合わせます。そのときは尊者（上位者）が西にいるようにします。妻以下はと言うと、階下になります。香案（香炉を置く机）を堂の中間に用意し、その上に香炉、香合（お香の容器）を置きます。茅を束にし、砂を集めて、香案（香炉を置く机）の前と、それぞれの位牌の前の地上に置きます。酒架（酒の置き場）を東階の上に用意し、その東に卓子（テーブル）を別に置き、その上に酒注（酒を注ぐ水さし）1つ、斟酒盞（酒を注ぐ杯）1つ、盤（皿）1つ、受酢盤（お供え物を載せる皿）1つ、匕（スプーン）1つ、巾（手ぬぐい）1つ、茶合（お茶入れ）、茶筌（茶をまぜる道具）、茶盞（茶碗）、茶托（茶碗の受け皿）、塩碟（塩の皿）、醴瓶（酌の瓶）を用意します。火爐（コンロ）、湯瓶（やかん）、香匙（お香のスプーン）、火箸（火箸）を西階の上に用意し、その西に卓子（テーブル）を別に置き、その上に祝版（祝詞をはりつける板）を置きます。盥盆（桶や皿）、帨巾（手ぬぐいやフキン）をそれぞれ2つずつ階階に下の東に用意します。その西には台（ものを載せる道具）と架（ものを架ける道具）があり、さらにその東に陳饌大牀（お供え物を置く棚）を用意します]。牲（いけにえ）を点検し、道具を洗い、饌（お供え物）をととのえます。[主人は、丈夫（成人した男子）たちをひきつれ、礼服を身に付け、牲（いけにえ）を点検し、屠殺するところを見守ります。主婦は、婦女たちをひきつれ、背子（女性の礼服）を身に付け、祭祀の道具を洗い、釜と鼎をきれいにし、祭祀の饌（お

供え物)をととのえます。お供え物は、位牌ごとに果物6品、菜蔬(野菜と青物)と脯醢(干し肉と塩から)をそれぞれ3品、肉、魚、饅頭、糕(団子みたいなもの)それぞれ1皿、羹(スープ)、飯(ライス)それぞれ1碗、肝それぞれ1串、肉それぞれ2串となります。がんばってサッパリときれいにします。祭祀が行われる前に、人に先に食べさせたり、猫、犬、虫、鼠のために汚されたりしてはいけません。

当日の早朝に起き、蔬果(青物と果物)、酒饌(酒とお供え物)を用意します。[主人以下は、礼服を身に付け、執事と一緒に祭祀を行うところまで行き、手を洗います。果碟(果物の容器)を位牌ごとの卓子(テーブル)の南端に用意し、その次に菜蔬(野菜と青物)と脯醢(干し肉と塩から)を互いにすき間をあけて用意します。盞盤(杯と皿)、醋櫛(酢の容器)を北端に用意し、盞(杯)は西で、櫛(漆器)は東で、匙筋(スプーンとハシ)は中央になります。玄酒と酒をそれぞれ1つずつ酒架の上に用意します。玄酒は、その日に井花水(深夜から早朝にかけて汲んだ水)を取って充分に入れます。酒に西において、爐(コンロ)に炭を燃やし、瓶(やかん)に水を満たします。主婦は、胄子(女性の礼服)を身につけ、祭饌(祭祀のお供え物)を炊いて暖め、すべて極めて熱くさせ、そうして合わせて盛り、東階の下にある火床の上に出して置きます。うっすらと明るくなってきたところで、位牌をささげ持ち、位置につきます。[主人以下は、それぞれきれいに着飾り、盥(たらい)で手を洗い、梘(手ぬぐい)で手をふき、祠堂の前まで行きます。丈夫(成人した男子)たちは、序列に従って立ちます。これは告日の作法のようにします。主婦は、西階の下で、北に向いて立ちます。主人は、母がいるときには、特に主婦の前に位置します。諸伯叔母(おばたち)や諸姑(姑たち)は、それに続きます。嫂(兄嫁)と弟婦(弟嫁)、姉、妹は、主婦の左にいます。その主母(女主人)主婦(祭祀における女性の代表)よりも年長の方は、全員が少し進みます。子孫の婦女で家の中で仕事をしている人は、主婦の後に三列にならびます。全員が北に向きます。北が上となります。立って、じっとしています。主人は、阼階から登り、笏を揚げ、お香を焚き、笏を出し、告げて「孝孫某、今以仲春之月、有事於皇高祖考某官府君、皇高祖妣某封某氏、皇曾祖考某官府君、皇曾祖妣某封某氏、皇祖考某官府君、皇祖妣某封某氏、皇考某官府君、皇妣某封某氏、以某親某官府君、某親某封某氏禘食。敢請神主出就正寢、恭伸奠獻」と言います。告げる文章のなかで仲春にするか、仲夏にするか、仲秋にするか、仲冬にするかは、その時に応じて決めます。祖考が官、爵、封、諡をもっていないなら、すべて位牌に書きつける文のようにします。禘食とは、傍系の親族で後継ぎのいない人と卑幼(目下の人)で先に亡くなった人のことです。いないなら言いません。告げ終わったら、笏を揚げ、櫛(箱)をおさめます。正位(主となる位牌)と副位

(一緒にまつている位牌)は、それぞれ一つの筒(竹や草を編んでつくった四角い箱)に置き、それぞれ執事1人に両手で胸の前まで持ち上げて持たせませす。主人は、笏を出し、先導します。主婦は、その後についていきます。卑幼(目下の人)は、後にいます。正寝(表座敷)まできたら、西階の卓子(テーブル)の上に置きます。主人は、笏を掲げ、櫃(箱)を開き、諸考神主(男の祖先の位牌たち)をささげ持って出し、位置につけます。主婦は、盥(たらい)で手を洗い、梘(手ぬぐい)で手をふき、諸妣神主(女の祖先の位牌たち)をささげ持ち、同じようにします。その神位(一緒にまつている位牌)はと言うと、子弟の一人がささげ持ちます。終わったら、主人以下は、全員が降り、もとの位置に戻ります。神霊にお参りします。[主人以下は、序列に従って立ちます。祠堂の作法のようにします。立って、じっとして、二度おじぎします。たとえば尊長(目上の人)、老人、病人などは、別の場所で休みます。神霊を招き寄せます。[主人は、登り、笏を掲げ、お香を焚き、笏を出し、少し退いて立ちます。執事のうち一人は、酒を開き、巾(手ぬぐい)を取って瓶の口をふき、酒を注(水さし)に満たします。また一人は、東階の卓(テーブル)の上にある盤盞(皿と盞)を取り、主人の左に立ちます。さらに一人は、注(水さし)を手に持ち、主人の右に立ちます。主人は、笏を掲げ、ひざまずきます。盤盞(皿と盞)をささげ持っている人も、ひざまずき、主人のほうに盤盞(皿と盞)を進めます。主人は、受け取ります。注を手に持っている人も、ひざまずき、酒を盞(杯)にくみます。主人は、左手で盤盞(皿と盞)を受け取り、右手で盞(杯)を持ち、茅の上にそそぎます。盤盞(皿と盞)を執事に手渡し、笏を出し、ひれ伏して立ち上がり、二度おじぎし、降り、もとの場所に戻ります。]。饌(お供え物)を進めます。[主人は登り、主婦はついていきます。執事のうち一人は、盤(皿)を用いて魚と肉をささげ持ちます。また一人は、盤(皿)を用いて米食(米料理)と麩食(麵料理)をささげ持ちます。さらに一人は、盤(皿)を用いて羹(スープ)と飯(ライス)をささげ持ちます。執事たちは、主人たちについて登ります。高祖の位牌の前まできたら、主人は、笏を掲げ、肉をささげ持ち、盤盞(皿と盞)の南にお供えします。主婦は、麩食(麵料理)をささげ持ち、肉の西にお供えします。主人は、魚をささげ持ち、醋椀(酢の容器)の南にお供えします。主婦は、米食(米料理)をささげ持ち、魚の東にお供えします。主人は、羹(スープ)をささげ持ち、醋椀(酢の容器)の東にお供えします。主婦は、飯(ライス)をささげ持ち、盤盞(皿と盞)の西にお供えします。主人は、笏を出し、順次に他の複数の正位(主となる位牌)に饌(お供え物)を用意してまわり、子弟たちや婦女たちにそれぞれ神位(一緒にまつている位牌)に饌(お供え物)を用意してまわらせます。すべて終わったら、主人以下は、全員が降り、もとの位置に戻ります。]。初献(酒をささげる

儀式の一番目)を行います。[主人は、登り、高祖の位牌の前まで行きます。執事のうち一人は、酒注(酒をつぐための水さし)を手に持ち、主人の右に立ちます。冬の月なら、先に酒を暖めます。主人は、笏を揚げ、高祖考の位牌のところにある盃(皿と杯)をささげ持ち、位牌の前で東に向いて立ちます。執事は、西に向き、酒を盃(杯)にくみます。主人は、これをささげ持ち、もとの場所(高祖考の位牌のところ)にお供えします。次に高祖妣の盃(皿と杯)をささげ持ち、これまた同じようにします。笏を出し、位牌の前で北に向いて立ちます。執事のうち二人は、高祖考と高祖妣の盃(皿と杯)をささげ持ち、主人の左右に立ちます。主人は、笏を揚げ、ひざまずきます。執事もひざまずきます。主人は、高祖考の盃(皿と杯)を受け取り、右手で盃(杯)を取り、これを茅の上に祭ります。盃(皿と杯)を執事に手渡し、これをもとの場所に返します。それから高祖妣の盃(皿と杯)を受け取り、これまた同じようにします。笏を出し、ひれ伏して立ち上がり、少し退き、立ちます。執事は、爐(コンロ)で肝をあぶり、これを礪(磁器の器)を用いて盛りつけます。兄弟のうち上から三番目の一人が、これをささげ持ち、高祖考と高祖妣の前、匙筥(スプーンとハシ)の南にお供えします。祝(祝詞をあげる人)は、版(祝詞を書いた板)を取り、主人の左に立ち、跪いて読み、「維年歳月朔日、子孝元孫某官某敬昭告於皇高祖考某官府君、皇高祖妣某封某氏、气序流易、時維仲春、追感歲時、不勝永慕、敢以潔牲柔毛、粢盛醴齊、祗薦歲事、以某親某官府君、某親某封某氏禱食、尚饗」と言います。終わったら、立ち上がります。曾祖(曾祖父)の前では「孝曾孫」と称します。祖(祖父)の前では「孝孫」と称します。考(死んだ父)の前では「孝子」と称し、「不勝永慕」を「昊天罔極」と改めます。およそ禱(一緒に祭るもの)は、伯祖父と叔祖父は高祖と一緒に祭ります。伯父と叔父は曾祖と一緒に祭ります。兄弟は祖と一緒に祭ります。子孫は考と一緒に祭ります。その他はすべてこれを手本とします。もし本位(もとの位牌)がないなら、「以某親禱食」を言いません。祖考に官位がないときと春夏秋冬の字を改めるときについては、すべて先述のとおりです。主人は、二度おじぎし、退き、その他の位牌のところまで行き、献上と祝詞を行います。これは最初のようにします。複数の位牌のところを順番にまわっていき、それぞれの位牌のところまで祝詞を読み、それが終わるたびごとに、そこで兄弟や男たちのなかで亜献と終献をしない人が、順次に分かれて本位(もとの位牌)と一緒にまつられている位牌のところまで行き、酒をつぎ、お供えします。これは作法のようにします。ただし祝詞を読みません。献上し終わったら、全員が降り、もとの位置に戻ります。執事は、別の道具を用いて酒と肝を片づけ、盃(杯)をもとの場所に置きます]。亜献(酒をささげる儀式の二番目)を行います。[主婦が、これを行います。婦女たちは、肉を炙ってお供えすること、そし

て一緒にまつている位牌に酒をついでまわることを行います。初献の作法のようにします。ただし祝詞を読みません。終献（酒をささげる儀式の三番目）を行います。[兄弟の年長者、もしくは長男、もしくは親賓（親しい客人）が、これを行います。子弟たちは、肉を炙ってお供えすること、そして一緒にまつている位牌に酒をついでまわることを行います。重献の作法のようにします]。脩食（食事を勧める儀式）を行います。[主人は、登り、笏を掲げ、注（水さし）を手に持ったら、すぐに複数の位牌に酒をそそいでいきます。すべて満たされたら、香案（香炉を置く台）の東南に立ちます。主婦は、登り、飯（ライス）の中に匙（スプーン）をさし、柄を西にし、筋（ハシ）をととのえ、香案（香炉を置く台）の西南に立ちます。全員が北に向きます。二度おじぎし、降り、もとの位置に戻ります]。闔門（出て門を閉じる儀式）を行います。[主人以下は、全員が出ます。祝（祝詞をあげる人）は、門を閉じます。門のないところなら、簾をおろすようにしても、さしつかえありません。主人は、門の東に立ち、西に向きます。丈夫（成人した男子）たちは、その後にあります。主婦は、門の西に立ち、東に向きます。婦女たちは、その後にあります。もし尊長（目上の人）がいるときには、少し他所で休みます。これが、いわゆる「厭」です]。門を開きます。[祝（祝詞をあげる人）は、三回の咳払いをし、そこで門を開きます。主人以下は、全員が入ります。その尊長（目上の人）で先に他所において休んでいた人も、入って位置につきます。主人と主婦は、茶をささげ持ち、考妣（父母）の位牌の前に分かれて進みます。附位（一緒にまつている位牌）は、子弟たち、婦女たちに進ませます]。昨（お供えしていた食べ物）を受けます。[執事は、香案（香炉を置く台）の前に席（むしろ）を用意します。主人は、席につき、北に面します。祝（祝詞をあげる人）は、高祖考の位牌の前まで行き、酒の盤盞（皿と杯）を持ち上げ、主人の右まで行きます。主人はひざまずき、祝（祝詞をあげる人）もひざまずきます。主人は、笏を掲げ、盤盞（皿と杯）を受け取り、酒を祭り（酒を地にそそぎ）、酒を少し口にします。祝（祝詞をあげる人）は、匙（スプーン）とあわせて盤（皿）を取り、複数の位牌にお供えされている飯（ライス）をそれぞれ少しずつすくい取り、ささげ持って主人の前まで行き、主人に対して祝福して「祖考命工祝承致多福於汝孝孫、使汝受祿於天、宜稼於田、眉壽永年、勿替引之」と言います。主人は、酒を席（むしろ）の前に置き、笏を出し、ひれ伏して立ち上がり、二度おじぎし、笏を掲げ、ひざまずき、飯（ライス）を受け取り、味見し、左の袂に入れ、袂に人差し指をかけ、酒を取り、飲み干します。執事は、盞（杯）を受け取り、右から注（水さし）の傍らに置きます。飯（ライス）を受け取り、左から同じようにします。主人は、笏を手に持ち、ひれ伏して立ち上がり、東階の上に立ち、西に向きます。祝（祝詞をあげる人）は、西階の上に立ち、東に向きます。利成

(食事をささげる礼が完了すること)を告げ、降り、もとの位置に戻り、それぞれの位置にいる人たちと一緒に全員で二度おじぎします。主人は、おじぎせず、降り、もとの位置に戻ります。神霊にお別れの挨拶をします。〔主人以下は、全員が二度おじぎします〕。位牌を収納します。〔主人と主婦は、全員が降り、それぞれ位牌をささげ持ち、櫃(箱)に収納します。主人は、笥(竹や草を編んでつくった四角い箱)を用いて櫃(箱)をおさめ、ささげ持って祠堂に帰ります。来るときの作法のようにします〕。片づけます。〔主婦は、戻って、片づけを監督します。酒の盞(杯)、注(水さし)、その他の容器の中に残っているものは、すべて瓶に入れ、口を閉じて封をします。いわゆる「福酒」です。果裁(果物と青物)、肉食(肉料理)は、奠器(ふだんの食器)にならべます。主婦は、祭祀の道具を洗うのを監督して、これを収蔵します〕。饌(お供え物を分け合うこと)をします。〔この日、主人は、監督し、祭酢(祭祀のときにお供えする食べ物)を分け、少しばかり取って合(盞つきの容器)に置き、酒もあわせて、すべて封をし、下僕を行かせて、書状を添えて酢(お供えの食べ物)を送ります。終わったら席(むしろ)を用意し、男女は場所を別にします。尊行(目上の人)は、みずから一列をつくり、南に向き、堂の中央のほうに先頭がくるようにして中央から東西に分かれて並んでいきます。もし一人だけのときには、真ん中に座ります。その他は順次に向かい合うようにし、東西に分かれて並びます。尊者(上位者)1人が先に座につき、男たちは序列に従って立ち、世代ごとに一列をつくり、東を上とします。全員が二度おじぎし、子弟の長者(年長者)1人が少し進んで立ちます。執事のなかの一人は、注(水さし)を手を持って、その右に立ちます。また一人は、盤盞(皿と杯)を手を持って、その左に立ちます。献上する役割の人は、笏を掲げ、ひざまずきます。弟が献上する役割をするときには、尊者(上位者)は起立します。子姪(子、甥、姪)が献上する役割をするときには、座ります。注(水さし)を受け取り、酒をくみ、注(水さし)を返し、盞(杯)を受け取ります。祝(祝詞をあげる人)は「祀事既成、祖考嘉饗、伏願某親、備膺五福、保族宜家」と言います。執事に盞(杯)を手渡し、尊者(上位者)の前に置かせます。長者(年長者)は笏を出し、尊者(上位者)は酒を持ち上げます。終わったら、長者(年長者)は、ひれ伏して起き上がり、退いてもとの位置に戻り、男たちと一緒に全員で二度おじぎします。尊者(上位者)は、命じて注(水さし)を取らせ、そして長者の盞(杯)を前に置かせ、みずから酒をくみます。祝(祝詞をあげる人)は、「祀事既成、五福之慶、与汝曹共之」と言い、執事に命じて順次に位置につかせ、酒をくんで全員にゆきわたらせます。長者(年長者)は、進み、ひざまずき、受け取り、飲み終わったら、ひれ伏して立ち上がり、退いて立ちます。男たちは、進み、手を組み合わせて挨拶し、退いて立って飲みます。長者(年長者)

は、男たちと一緒に全員で二度おじぎします。婦女たちは、家の中で女性の尊長（目上の人）に献上します。男たちの作法のようにします。ただし、ひざまずきません。終わったら、そこで座につき、肉食（肉料理）をすすめます。婦女たちは、堂の前まで行き、男の尊長（目上の人）に祝い物を献上します。男の尊長（目上の人）は、これにお返しします。作法のようにします。男たちは、中堂まで行き、女の尊長（目上の人）に祝い物を献上します。女の尊長（目上の人）は、これにお返しします。作法のようにします。そこで座につき、麩食（麩料理）をすすめます。内外の執事は、それぞれ内外の尊長（目上の人）に祝い物を献上します。作法のようにします。お返しはしません。終わったら、酒をくみはじめて座にいる人にゆきわたらせ、全員が持ちかげるのをもち、そこで二度おじぎし、退きます。終わったら、米食（米料理）をすすめます。それから、ひろく酒をすすめてまわり、ときどき祭饌（祭祀のお供え物）を用います。酒饌（酒と食べ物）が足りないときには、他の酒、他の饌（食べ物）を用いて付け足します。終わろうとするとき、主人は胙（お供えしていた食べ物）を外向きの仕事をする下僕に分け与えます。主婦は胙（お供えしていた食べ物）を内向きの仕事をする執事に分け与えます。身分や地位が取るに足らないくらいに低い人にも、あまねく分け与えます。その日で、すべて終わりです。お供え物を分けてもらう人は、二度おじぎし、そこで席（むしろ）を片づけます]

およそ祭祀は、いとおしみ敬うという誠意をつくすことが最も大切となるものです。貧しいときには、家の財産の程度からして、どのくらいまでの儀式を行えるかを計算します。病んでいるときには、今の体力の程度からして、どのくらいまでの儀式を行えるかを計算します。そのうえで自分に最適な程度の祭祀を行います。財産と体力からして十分にできるなら、おのずから以上に作法のようにすべきです。

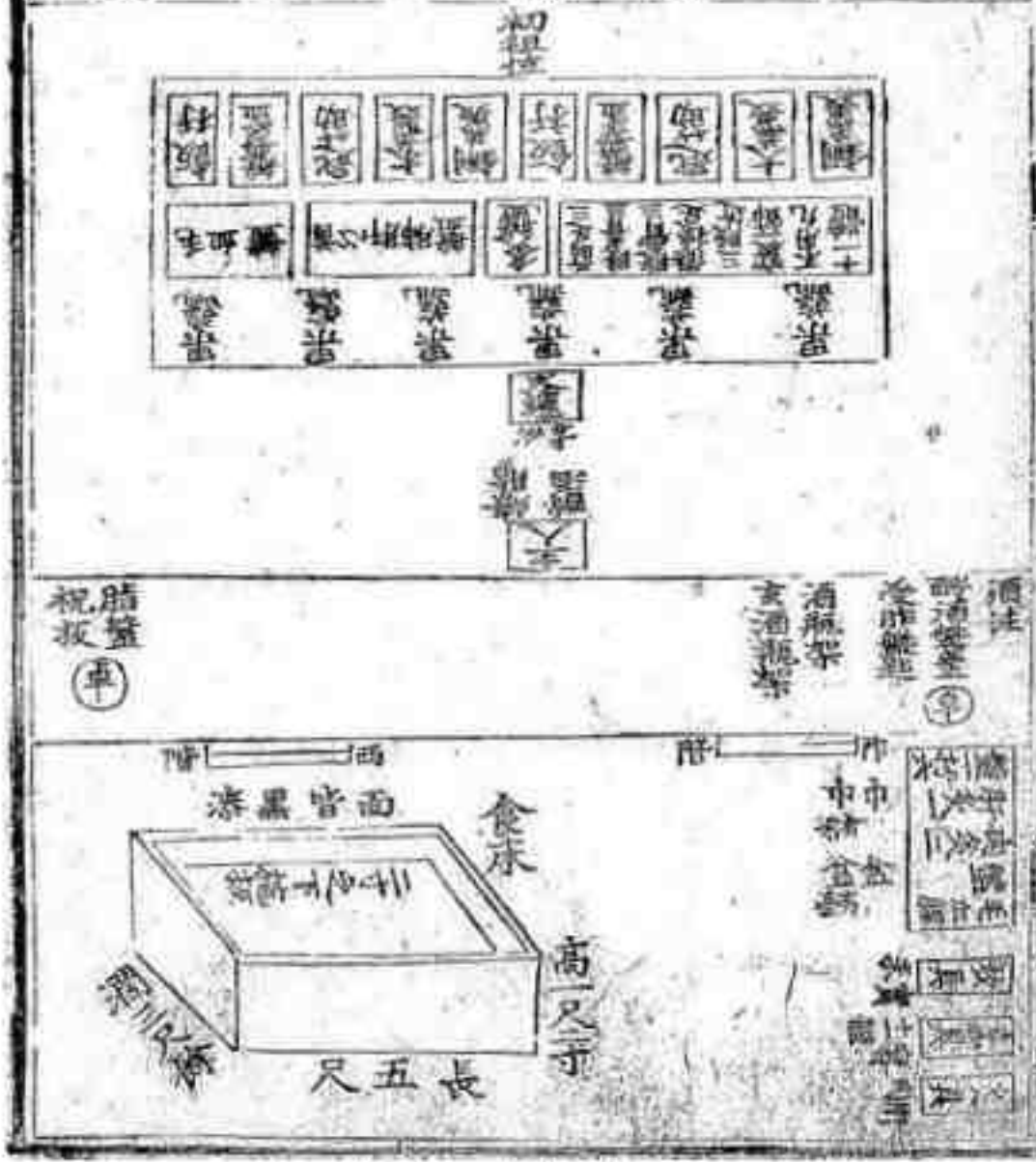
第2章 初祖 [ただ始祖を継いでいる宗（一族）だけが祭ることができます]

冬至は、始祖を祭ります。[程子は、「これは最初に人民を生んだ祖先です。冬至は陽が始まる場所です。ですから、そういったところにあやかって始祖を祭るのです」と言っています]。

期日の三日前に齋戒（ものいみをして心身を清めること）をします。[時祭の作法のようにします]。

期日の前日に位置を用意します。[主人と丈夫（成人した男子）たちは、礼服を身に付け、執事をひきつれて祠堂を掃除します。神位（位牌）を堂の中間、北の壁の下に用意します。屏風をその後に用意し、食牀（食事の台）をその前に用意します]。道具をならべます。[火爐（コンロ）を堂の中に用意します。煮炊きする道具を東階の下、盥（たらい）の東に用意します。炙る道具は、そ

堂中祭初祖之圖



堂において初祖を祭る図

の南に置きます。茅を東にしたもの以下は、いずれも時祭と同じです。主婦と婦女たちは、背子（女性の礼服）を身に付け、執事をひきつれて祭祀の道具を洗い、釜と冊をきれいにし、果椽（果物の容器）6つ、盤（皿）6つ、杆（くぼんだ椀）6つ、小盤（小皿）3つ、盞盤（杯と皿）匙筋（スプーンとハシ）それぞれ2つずつ、脂盤（油の皿）1つ、酒注（酒をつぐための水さし）と醇酒盤蓋（酒をつぐための皿と杯）1つ、受酢盤匙（お供えの食べ物を受け取るための皿とスプーン）1つをととのえます。以上を調べますに、本来は古代の祭器（祭祀の道具）を使用すべきです。今は恐らく個人の家では、場合によ

ては処理できませんし、とりあえず今の道具を使用することで簡単で便利になるようにします。神位（位牌）は、蒲蓐（がまの葉で作ったむしろ）を使用し、草席（草のむしろ）を加えます。すべて縁があります。場合によっては、紫褥（紫色のしとね）を使用します。すべて長さは5尺、広さは2尺半です。屏風は、枕屏の制式のようにし、席（むしろ）の三方を囲むのに十分なものにします。食牀（食べ物の台）は、版（平らにした板）を用いてつくり、面の長さは5尺、広さは3尺余りです。四方の囲みも版（平らにした板）を用い、高さは1尺2寸です。2寸以下のところで、版（平らにした板）を施します。面はすべて黒漆にします。饌（お供え物）をととのえま

す。[哺時（午後4時）に牲（いけにえ）を殺します。主人は、みずから毛をはぎ、血をぬいて、毛血を1つの盤（皿）に盛ります。頭、心臓、肝、肺は、別の1つの盤（皿）に盛ります。脂肪部分は、よもぎに混ぜて、別の1つの盤（皿）に盛ります。すべて生肉のままとします。体の左は使用せず、体の右の前足は3つに切り分け、背すじは3つに切り分け、おき腹は3つに切り分け、後足は3つに切り



分けます。そのうち後足の穴に近い1つは取り去り、およそ11割となります。米飯は1つの杓（椀）に盛りつけ、1つの盤（皿）に置きます。蔬果（青物と果物）は、それぞれ6品です。切った肝は、1つの小盤（小皿）に盛りつけます。切った肉は、1つの小盤（小皿）に盛りつけます。

当日の早朝に起き、蔬果（青物と果物）、酒饌（酒とお供え物）を用意します。

〔主人は、丈夫（成人した男子）たちをひきつれ、玄酒の瓶と酒の瓶を架（酒を置く道具）の上に用意します。酒注（酒をそそぐ水さし）、酌酒盤蓋（酒をつぐための皿と杯）、受酢盤匙（お供えの食べ物を受け取るための皿とスプーン）それぞれ1つを東階の卓子（テーブル）の上に用意します。祝版（祝詞をはりつける板）と脂盤（油の皿）を西階の卓子（テーブル）の上に用意します。匙筋（スプーンとハシ）それぞれ1つを食牀（食事を置く台）の北端の東と西に用意します。互いに2寸5尺の距離をとります。盤蓋（皿と杯）それぞれ1つを筋（ハシ）の西に用意します。果子（果物）は食牀（食事を置く台）の南端に置き、蔬（青物）はその北に置きます。毛血腥盤（神霊に供える生肉を盛りつけた皿）、切った肝、切った肉は、すべて階下の饌牀（お供え物を置く台）の上にならべます。米は、階下の炊く道具の中に満たします。11体の肉は、煮る道具の中に満たします。火を焚くことによって、これを熱します。盤（皿）

1つ、杆（椀）6つは、饌牀（お供え物を置く台）の上に置きます。うっすらと明るくなってきたところで、きれいに着飾り、位置につきます。[時祭の作法のようにします]。神霊にお参りし、神霊を招き寄せます。[主人は、手を洗い、登り、脂盤（油の皿）をささげ持ち、堂の中の爐（コンロ）の前まで行き、ひざまずき、告げて「孝孫某今以冬至、有事於皇始祖考、皇始祖妣、敢請尊靈降居神位、恭伸奠獻」と言います。終わったら、油を爐（コンロ）の炭の上で燃やします。ひれ伏して立ち上がり、少し退いて立ち、二度おじぎします。執事は、酒を開きます。主人は、ひざまずき、酒をつぎます。これは時祭の作法のようにします]。饌（お供え物）を進めます。[主人は、登り、神位（位牌）の前まで行きます。執事は、毛血脛肉（お供えする生肉）をささげ持って進みます。主人は、受け取り、これを歳（青物）の北に用意します。西が上になります。執事は、熟肉（煮た肉）を出し、盤（皿）に置き、ささげ持って進みます。主人は、受け取り、これを脛盤の東に用意します。執事は、杆（椀）2つを用いて飯を盛りつけ、杆（椀）2つを用いて肉滷（肉汁）の味付けしていないものを盛りつけ（大羹）、さらに杆（椀）2つを用いて肉汁に野菜をまぜたものを盛りつけ（羹羹）、ささげ持って進みます。主人は、受け取り、これを用意するわけですが、飯は盞（杯）の西に置き、大羹は盞（杯）の東に置き、羹羹は大羹の東に置きます。全員が降り、もとの位置に戻ります]。初献（酒をささげる儀式の一番目）を行います。[時祭の作法のようにします。ただし主人は、ひれ伏して立ち上がり終わっています。兄弟は、肝をあぶり、塩を加え、小盤（小皿）に満たし、そうして従います。祝（祝詞をあげる人）は、挨拶して「維年歲月朔日、子孝孫姓名、敢昭告於皇初祖考、皇初祖妣、今以中冬陽至之始、追惟報本、礼不敢忘、謹以潔牲柔毛、柔盛禮齊、祗薦歲事、尚饗」と言います]。亜献（酒をささげる儀式の二番目）を行います。[時祭の作法のようにします。ただし婦女たちは、肉をあぶり、塩を加え、そうして従います]。終献（酒をささげる儀式の三番目）を行います。[時祭と以上の作法のようにします]。脍食（食事を勧める儀式）を行い、闔門（出て門を閉じる儀式）を行い、啓門（門を開いて入る儀式）を行い、受胙（お供え物をいただく儀式）を行い、辞神（神霊に別れの挨拶をする儀式）を行い、徹（片づけること）を行い、饌（お供え物を分け合うこと）を行います。[時祭の作法のようにします]。

第3章 先祖 [始祖、高祖を継いでいる宗（一族）が祭ることができます。始祖を継いでいる宗（一族）はと言うと、初祖より続いているものです。高祖を継いでいる宗（一族）はと言うと、先祖より続いているものです]

立春は、先祖を祭ります。[程子は、「初祖以下、高祖以上の祖先です。立春は、物を生む始めです。ですから、そういったところにあやかって先祖を祭る

祠堂祭先祖之圖



祠堂において先祖を祭る図

のです」と言っています。

期日の三日前に齋戒（ものいみをして心身を清めること）をします。【初祖を祭る作法のようにします】。

期日の前日に位置を用意し、道具をならべます。【初祖を祭る作法のようにします。ただし祖考の神位（位牌）を堂の中の西に用意し、祖妣の神位（位牌）を堂の中の東に用意します。蔬果椽（青物と果物の容器）は、それぞれ12個です。大盤（大皿）は6つ、小盤（小皿）は6つです。その他は、いずれも同じです】。膳（お供え物）をととのえます。【初祖を祭る作法のようにします。

ただし毛と血は1盤(皿)に盛りつけ、頭部と心臓は1盤(皿)に盛りつけ、肝と肺は1盤(皿)に盛りつけ、脂をよもぎにまぜたものは1盤(皿)に盛りつけます。切った肝は2つの小盤(小皿)に盛りつけます。切った肉は4つの小盤(小皿)に盛りつけます。その他は、いずれも同じです。

当日の早朝に起き、蔬果(青物と果物)、酒饌(酒とお供え物)を用意します。[初祖を祭る作法のようにします。ただし位牌ごとに匙(スプーン)と箸(ハシ)はそれぞれ1つ、盤盞(皿と杯)はそれぞれ2つで、階の下の饌牀(お供え物の台)の上に置きます。その他は、いずれも同じです]。うっすらと明るくなってきたところで、きれいに着飾り、位置につきます。神霊にお参りし、神霊を招き寄せます。[初祖を祭る作法のようにします。ただし告げる文章は「始」を改めて「先」とします。その他は、いずれも同じです]。饌(お供え物)を進めます。[初祖を祭る作法のようにします。ただし先に祖考の位牌まで行き、毛と血、頭部と心臓、前足の上2関節、背すじ3関節、後足1関節をささげます。次に祖妣の位牌まで行き、肝、肺、前足1関節、わき腹3関節、後足の下1関節をささげます。その他は、いずれも同じです]。初献(酒をささげる儀式の一番目)を行います。[初を祭る作法のようにします。ただし両方の位牌に酒を献上し、それぞれひれ伏して立ち上がり、中間で少し立ち止まります。兄弟は、肝をあぶり、2つの小盤(小皿)に盛って、従います。祝詞は、「初」を改めて「先」とし、「中冬陽至」を改めて「立春生物」とします。その他は、いずれも同じです]。重献(酒をささげる儀式の二番目)を行い、終献(酒をささげる儀式の三番目)を行います。[初祖を祭る作法のようにします。ただしあぶった肉をささげ持って従うときは、それぞれ2つの小盤(小皿)に盛ります]。侷食(食事を勧める儀式)を行い、闔門(出て門を閉じる儀式)を行い、啓門(門を開いて入る儀式)を行い、受酢(お供え物をいただく儀式)を行い、辞神(神霊に別れの挨拶をする儀式)を行い、撤(片づけること)を行い、餼(お供え物を分け合うこと)を行います。[いずれも、初祖を祭る作法のようにします]。

第4章 禴(父の御霊) [禴を継いでいる宗(一族)以上は、すべて祭ることができます。ただ支子(長男以外の子)は祭りません]。

季秋(晩秋=9月)は、禴(父の御霊)を祭ります。[程子は、「季秋は、物を完成させる始めであり、これまたそういったところにあやかって禴を祭ります」と言っています]。

期日の前の月の下旬に日を占います。[時祭の作法のようにします。ただ告げる文章は、「孝孫」を改めて「孝子」とし、さらに「祖考妣」を改めて「考妣」とします。もし母が活着しているときには、「皇考」と言い、もどとなる麓の前に告げるにとどめます。その他は、いずれも同じです]。

期日の三日前に齋戒（ものいみをして心身を清めること）をし、期日の前日に位置を用意し、道具をならべます。〔時祭の作法のようにします。ただし正寝（表座敷）にとどめ、両方の位牌を堂の中に合わせて用意します。西が上となります。〕。饗（お供え物）をととのえます。〔時祭の作法と同じようにします。2人分を用意します〕。

当日の早朝に起き、蔬果（青物と果物）、酒饗（酒とお供え物）を用意します。〔時祭の作法のようにします〕。うっすらと明るくなってきたところで、きれいに着飾り、祠堂まで行き、神主（位牌）をささげ持って出し、正寝（表座敷）につきます。〔時祭の正寝における作法のようにします。ただし告げる文章は、「孝子某、今以季秋成物之始、有事於皇考某官府君、皇妣某封某氏」とします〕。神霊にお参りし、神霊を招き寄せ、饗（お供え物）を進め、初献（酒をささげる儀式の一番目）を行います。〔時祭の作法のようにします。ただし祝詞の文章は「今以季秋成物之始、感時追慕、昊天罔極」とします。その他はいずれも同じです〕。再献（酒をささげる儀式の二番目）を行い、終献（酒をささげる儀式の三番目）を行い、侷食（食事を勧める儀式）を行い、闔門（出て門を閉じる儀式）を行い、啓門（門を開いて入る儀式）を行い、受胙（お供え物をいただく儀式）を行い、辞神（神霊に別れの挨拶をする儀式）を行い、撤（片づけること）を行い、饗（お供え物を分け合うこと）を行います。〔いずれも時祭の作法のようにします〕。

第5章 忌日

期日の前日に齋戒（ものいみをして心身を清めること）をします。〔禰を祭る作法のようにします〕。位置を用意します。〔禰を祭る作法のようにします。ただし一つの位牌（忌日に該当する位牌）を用意するにとどめます〕。道具をならべます。〔禰を祭る作法のようにします〕。饗（お供え物）をととのえます。〔禰を祭る作法のようにします。1人分です〕。

当日の早朝に起き、蔬果（青物と果物）、酒饗（酒とお供え物）を用意します。〔禰を祭る作法のようにします〕。うっすらと明るくなってきたところで、主人以下は服を着替えます。〔禰であるときには、主人や兄弟は髷紗幘頭（灰色の薄絹の頭巾）、髷布衫（灰色の一重の衣服）、布裏角帯（布の裏地を使った四角い帯）です。祖以上であるときには、髷紗衫（灰色の薄絹の一重の衣服）です。旁親（傍系の親族）であるときには、皂紗衫（黒い薄絹の一重の衣服）です。主婦は、特髷（髪のかき方の一種）にして飾りを取り去り、白大布淡黄幘（無地の粗布でつくられた薄い黄色の上着）を身につけます。その他の人は、全員が装飾を取り去った服を身につけます〕。祠堂まで行き、神主（位牌）をささげ持って出し、正寝（表座敷）につきます。〔禰を祭る作法のようにします。ただ

し告げる文章は「今以某親某官府君遠諱之辰、敢請神主出就正寢、恭伸追慕」とします。その他は、いずれも同じです。神霊にお参りし、神霊を招き寄せ、饌（お供え物）を進め、初献（酒をささげる儀式の一番目）を行います。〔禰を祭る作法のようにします。ただし祝詞の文章は「歳序流易、諱日復臨、追遠感時、不勝永慕」とします。考證は「不勝永慕」を改めて「昊天罔極」とします。旁親（傍系の親族）は「諱日復臨、不勝感愴」とします。もし考妣であるときには、祝（祝詞をあげる人）は立ち上がり、主人以下は大声をあげて泣き、悲しみの限りをつくします。その他は、いずれも同じです〕。重献（酒をささげる儀式の二番目）を行い、終献（酒をささげる儀式の三番目）を行い、侷食（食事を勧める儀式）を行い、闔門（出て門を閉じる儀式）を行い、啓門（門を開いて入る儀式）を行います。〔いずれも禰を祭る作法のようにします。ただし受酢（お供え物をいただく儀式）はありません〕。この日は、酒を飲まず、肉を食べず、音楽を聞きません。髷巾（灰色の頭巾）、素服（無地の衣服）、素帯（無地の帯）を身につけて居ます。夜は外で寝ます。

第6章 墓祭

三月の上旬に日を選びます。期日の前日に齋戒（ものいみをして心身を清めること）をします。〔家祭の作法のようにします〕。饌（お供え物）をととのえます。〔墓のところで墓の数の分だけ時祭のような品をととのえます。さらに魚、肉、麴食（麵食）をそれぞれ大盤（大皿）1つ分ずつ用意します。后土（大地の神）を祀るのに用います〕。当日の早朝に掃除をします。〔主人は、礼服を身につけ、執事をひきつれて墓所まで行き、二度おじぎします。指示を受けて塋城（墓地）の内外を行動し、巡回して3周ほど見て回ります。雑草があったときには、そこで刀や斧を使用して、すき取ったり、切り取ったり、刈り取ったり、払い取ったりして掃除します。終わったら、もとの位置に戻り、二度おじぎします。さらに地面を掃除し、墓の左において后土（土地の神）を祭ります〕。席（むしろ）をしき、饌（お供え物）をならべます。〔新しくてきれいな席（むしろ）を使用し、墓前にならべます。饌（お供え物）を用意します。家祭の作法のようにします〕。神霊にお参りし、神霊を招き寄せ、初献（酒をささげる儀式の一番目）を行います。〔家祭の作法のようにします。ただし祝詞の文章は「某親某官府君之墓、気序流易、雨露既濡、瞻掃封塋、不勝感慕」とします。その他は、いずれも同じです〕。重献（酒をささげる儀式の二番目）を行い、終献（酒をささげる儀式の三番目）を行います。〔いずれも子弟や親賓（親しい客人）に行わせます〕。辞神（神霊に別れの挨拶をする儀式）を行い、そこで徹（片づけること）を行います。終わったら、后土（大地の神）を祭り、席（むしろ）をしき、饌（お供え物）をならべます。〔席（むしろ）の南端に4つの盤（皿）を

置き、その北に盤盞（皿と杯）と匙筋（スプーンとハシ）を用意します。その他は、いずれも上と同じです。神霊にお参りし、神霊を招き寄せ、三献（酒をささげる儀式の一番目から三番目まで）を行います。[上と同じです。ただし祝詞の文章は「某官姓名、敢昭告於后土氏之神、某恭修歳事於某親某官府君之墓、惟時保佑、実頼神休、敢以酒饌、敬伸奠献、尚獲」とします]。辞神（神霊に別れの挨拶をする儀式）を行い、そこで片づけて退きます。



墓祭